

小文字の杜だより

2025.Vol.7

創造館の高齢者障がい者共同住宅へ医療的ケアのある重症心身障がい者の受入を行いましたので、その取り組みについてご紹介します。社会福祉法人あきの会の福岡の虹の家とないう診療所が連携し調整を行いました。また、ヘルパーの3号研修を終了し胃瘻などの医療行為が出来るよう整えました。これも、全て、「また創造館に住みたい」という願いに応えたいと、スタッフの熱い思いによって実現しました。

創造館での一人暮らしを開始されたAさんの紹介

以前創造館に入居されていましたが誤嚥性肺炎を繰り返し胃瘻になったことで、別の医療ケアのある施設に入所されていきました。昨年6月、なないろ診療所の医療型特定の利用を開始しました。その当時、るい瘦が激しく皮膚状態

も不良で呼吸状態も良くありませんでした。遠方のためお母さんが会いに行けず「できれば創造館で生活できるようになってほしい」という本人・家族の想いの実現に向け、調整を開始しました。



初めの2か月半は、役所の協力を得て虹の家の短期入所を利用。栄養・嚥下等を含む全身状態の確認、既存の胃瘻チューブ形態の検討等が行われました。

長期支援が必要になるとの判断もあり、療養介護事業所虹の家に約半年間入所。その結果、栄養剤見直しにより栄養状態が改善、体重も増加。胃瘻チューブも近隣病院の協力により日常的に管理しやすい形態へ変更。口からの食事、専門的な評価及び医師判断のもと、少量ですが訓練的に食べる機会を提供できるようになりました。リクライニング車椅子の見直しや、ヘルパー援助で必要なリフト・スリングシートも、専門業者との連携により適切な福祉機器を準備。また、在宅吸引行為に対応できるようヘルパー職員は資格を取得しました。退院に向け虹の家となないろで数回にわたりカンファレンス

を行い令和7年7月12日創造館入居となりました。



創造館での医療的なケアはペグ交換を含め、なないろ診療所が中心となって提供し、訪問看護・歯科も導入。引越越し時にはご家族や後見人の方も駆けつけて頂きました。皆様の協力により本人・ご家族が安心できる環境を整えることができ、現在、創造館での生活を楽しまれています。



喀痰吸引等研修3号研修

ヘルパーステーションなないろは、特定行為登録事業所の申請を出し受理

されました。

8人の介護福祉士及びヘルパーが3号研修を受け、虹の家でAさんに対する喀痰吸引・胃瘻の実施指導を受けました。これで、創造館の入居でヘルパーさんによるAさんの経管栄養や吸引を行うことが出来るようになりました。3号研修を受け実際に援助にあたる6名には資格手当②が支給されます。

また、なないろ診療所の理学療法士、作業療法士も喀痰吸引研修を受け合格し現場で吸引を行うことが出来るようになっていきます。

法人では今後も、職員のスキルアップと医療ケアの質の向上に努めていきます。

【第3号研修でできること】

◆対象者

特定の利用者（筋萎縮性側索硬化症（ALS）またはこれに類似する神経・筋疾患、筋ジストロフィー、高位頸髄損傷、遷延性意識障害、重症心身障害などを患っている療養患者や障がい者）

◆実施可能な行為

- ・喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）
- ・経管栄養（胃瘻または腸瘻・経鼻）

社会福祉法人あきの会

北九州事業部

北九州市小倉北区大島1丁目7-25
TEL 093・512・3757

法人本部

福岡市博多区千代1丁目15-10号
TEL 092・651・7325